

## 市長と語ろう地域ミーティング〔 粟田部地区 〕開催結果

開催日時 平成25年5月14日〔火〕午後7時30分から9時05分まで

会場 花筐公民館 2階 大会議室

出席者（地区）60人

（市側）市長、今立総合支所長、福祉保健部理事、建設部理事、都市整備課長  
子ども福祉課長、下水道課長、産業政策課長、まちづくり・交通対策  
課長、水道部政策幹、福祉保健部政策幹、総合支所政策幹、地域防災  
対策室長、介護保険室長、行政管理課副課長、教育振興課副課長

司会進行 花筐自治振興会事務局長

オペレーター 主事（行政管理課）

記録 副課長（地域振興課）

担当 課長、室長（秘書広報課）、参事（市民自治推進課）

市民憲章唱和

花筐自治振興会会長あいさつ

市長あいさつ及び説明

市長説明（当初予算）と市政に対する意見交換

Q1 < 山中川の早期河川改修について >

山中川の河川改修について、地域ミーティングで2回要望し、今日これで3回目となる。その理由は、平成25年3月12日に越前市東部集中豪雨災害対策・鞍谷川住民説明会が開かれたが、山中川については何の説明もなかった。確か、平成24年の水害を受けて区長全員署名して、自治振興会を通して市に要望したはずである。説明会では、私から山中川改修について質問したが、若干の説明がその場であっただけであった。翌日に市の方4名と県丹南土木の方1名が来られて説明をされ、一歩前進したかなと思っている。私は、問題点が3つあると思う。

山中川の応急的臨時的対策でなく、抜本的な河川改修をお願いしたい。

下水道課の計画・雨水対策では、平成25年度に全体計画を検討する、平成26年度に補助金の法的手続きをとる、平成27年度に具体的対策の詳細設計を行う、平成28年度以降に雨水対策の工事着手、と足かけ4年かかっている。民間では考えられぬ対応の遅さである。もっと早く対策を打ってもらえないのか。

山中川は、かつて農業用水として使われていたと、私は思っている。市のどこが所管す

るのか真剣に考えていただきたい。もう少し、問題点や課題をとらえたならば部課制を廃止して、リーダーを決めて、権限と責任を持たせて取り組んでいただけないのか。

以上3点を要望する。

#### A 1：下水道課長

本格的な対応として、きちんとした雨水整備計画を立てたいと考えています。今立地区には3本の都市下水路があるが、頻繁に浸水を繰り返す山中川については、来年度、国・県に対する重要要望事項として要望します。工事の内容によりますが、早い工事では、27年度から本格的な工事着手予定です。応急対策としましては、県が鞍谷川の河床掘削をします。応急対策ではありますが、一定の効果は出ると考えています。対応の遅さについては、今後農業用水も含め雨水の総合的対策を立てるにあたり、地元にご意見を伺いながら、下水道課の方で対策したいと考えていますので、ご理解いただきたくよろしくお願いします。

#### Q 2 <行政の対応について>

今の話で27年度着手なら1年早くなったが、雨はいつ降るか分からない。民間では考えられない対応の遅さである。行政は、そんなのではだめ、もっと速く真剣に、対策班やチームを作って、権限と責任を持たせて対応していただきたい。

#### A 2：市長

お気持ちは十分に受け止めさせていただきます。ぜひご理解いただきたいのですが、学校耐震化一つ取っても、Eランクで工事が未だ始まっていない学校もございます。学校耐震化に79億円かけていますが、順番を決めざるえません。いろんな箇所、いろんな課題がある中でこれをどういう風に、整備計画に位置づけるか、地区の皆さんと何年にも渡って、お約束している経緯もございます。この箇所も、是非やらねばならぬ場所として準備を進めている中で、ようやく国、県の補助をいただきながら工事にスタートできるということで準備が整い、今年度から予算処置を行いました。先ほども言いましたように、1年前倒しで工事に着手したいと思っています。

行政の仕組みとして、いろんな要望について、計画的に進める過程があること、限られた自治体予算の中では、国庫補助など国に申請して採択を受けてから工事に入ることを是非ご理解をいただきたいと思います。

#### Q 3 <河川改修について>

鞍谷川の改修なくして、山中川の改修なしと思っている。ゲリラ豪雨でいつどうなるか分からない。鞍谷川改修もさることながら、不老川の水も全部富永橋に落とすのは無理なので、水門等の設置と併せて、山中川に来る水を少しでも少なくすることを切にお願いし

たい。山中川と不老川の間にもう一本、川がある。その川を、県丹南土木とタイアップして五反田橋に落とすよう図っていただきたく願います。

A 3：下水道課長

不老川からの水門等につきましては、少しでも改善する方向で進んでいきたいと思っています。五反田橋については、鞍谷川の河床が下がって、大きく水が流れるよう改修されますけれども、それに併せて不老川、山中川など全体的な整備計画を立てながら考えますのでご理解のほどよろしく願います。又、地元にご意見を伺いながら検討させていただきますので、よろしく願います。

Q 4 <花筐公園の案内看板について>

予算関係の観光推進事業について、花筐公園の薄墨桜への案内看板がない。また、以前作ってもらった公園の観光パンフレットもない。お客様が来たら、個人的に作ったものを配布している。観光案内看板などをぜひ作っていただきたい。

A 4：産業政策課長

今日、担当となる観光振興課職員がいませんので、私の方から、ただいまのご意見ご要望を伝えておきます。どうぞよろしく願います。

市が提起する課題「地域の安全安心について」

市の説明に対する意見交換

Q 5 <粟田部内の「拡声器」の増設について>

拡声器では、音が聞こえないのは確かだが、サイレンの機能を上手く使えば、利用は可能だと思う。現状では、総合支所と花筐公民館だけしか設置されてないが、花筐小学校や東消防署への設置を要望する。

A 5：地域防災対策室長

豪雨災害の総括の説明の中でも申し上げましたように、「大雨で防災行政無線の屋外スピーカーの放送が聞き取りにくかった」ことは課題であると認識しております。

このようなことから、市では防災行政無線による情報伝達の他に、携帯電話へ直接メールを配信する「緊急速報（エリア）メール」、丹南ケーブルテレビの登録制のメール配信システム「ライフラインメール」の活用、丹南ケーブルテレビの緊急文字情報（L字放送）マスコミを通じた情報提供といった、複数の情報伝達を活用して、避難情報の提供を行っております。ご質問の屋外スピーカーの増設は、効果は限定的であると考えておりますので、慎重に対応したいと思っております。

Q 6 < 鞍谷川避難判断水位の変更又は運用での変更について >

昨年の水害で、花筐小学校南側の市営住宅付近は、4時の時点で越水高は60センチあった。その時点での県の水位テレメーターは3.15メートル、越水は、0.6メートル。つまり、2.5メートルで越水が始まったことになる。市の防災計画では、2.7メートルが避難判断水位となっているが、そのときは既に越水が始まっている状況となっている。この避難判断水位の見直しは、運用上はできないか、お聞きしたい。

A 6 : 地域防災対策室長

河川における水位についてのお尋ねですが、まず「避難判断水位」や「はん濫危険水位」など水位の名称は4項目あり、「水防法」や国の設定要領により決められております。また、水位の基準については、県が国の要領に基づき決めております。県の担当課の砂防防災課に確認いたしましたところ、それぞれ過去の水位データに基づき、水位の基準を設けているとのこと。ご意見の内容は、昨年の実績に基づくものであり、改めて検討を強く県の担当課に伝えましたので、ご理解をお願いします。

Q 7 < サイレン運用の変更について >

地元で出来ることは地元でやろうと、粟田部では、河川水位が2.1メートルを越えれば、今後の降雨量予測を参考に、住民に対し早めの避難を周知しようと考えている。一斉に周知するのに、サイレンの機能を上手く使えば伝達ができるのではないかと、思っている。

サイレンの長さ、鳴っている時間を変える。いくつかパターン化して、住民に予め伝えておく。サイレンだと遠くまで聞こえるし、その長さで判断していく、といった方法はいかがか。

A 7 : 地域防災対策室長

現在、サイレンの運用については、市地域防災計画に定めております「避難準備情報」、「避難勧告」、「避難指示」の3つの避難情報の伝達のため、それをサイレンを鳴らす時間と回数を変えて、避難の呼びかけに活用しております。

具体的には、避難準備情報は約40秒間のサイレン吹鳴を3回以上、避難勧告は約20秒間のサイレン吹鳴を6回以上、避難指示は約10秒間のサイレン吹鳴を12回以上、としております。ご意見の災害の危険が迫っている際の「早めの避難」は大変重要であると認識しておりますが、サイレンの運用につきましては、市全体の活用のままでさせていただきたいと考えておりますので、ご理解をお願いします。

住民の方に一斉に避難を周知する方法については、市としても、防災行政無線のほかに、携帯電話へ直接メールを配信する「緊急速報(エリア)メール」や丹南ケーブルテレビの提供する「ライフラインメール」といった携帯メールなどの複数の情報伝達手段を組み合わせることで、効率的で効果的な方法について、町内の方と一緒に検討させていただきたいと考えております。

Q 8 < 県道福井今立線及び市道 7808 号線の融雪化について >

降雪時における通学路の安全対策として、融雪化をお願いしたい。

粟田部町の南西部である国道417号線や味真野に通じる県道は、既に融雪化が進んでいる。

しかし、県道福井今立線や佐山交差点から今立総合支所へ行く2つの幹線道は、融雪化がして  
いない。通学路になっている上に、朝晩の交通量が多く混雑する道路である。今立総合支所に通  
じる道の間には、今立中央病院やスーパー・ユースあり、市民生活道路として活用されている。

また、佐山交差点は、変則交差点になっていて、除雪の雪がコーナーに堆積している。今のとこ  
ろ交通事故はないが、是非とも、この2つの市道・県道の融雪化をお願いしたい。

A 8 : 建設部理事

幹線道路の消雪につきましては、「越前市道路無雪化事業整備計画」に基づき、平成20  
年度から整備を行っているところです。

ご質問の市道は、佐山交差点・ユース通って、支所、国道までの約700mですが、この計  
画に位置づけをされており、今年度から詳細調査を行い、工事に着手する予定となってい  
ます。また、県道福井今立線につきましては、幹線道路のネットワークの強化の観点から、  
今後、県に働きかけを行ってまいりたいと思います。

Q 9 < 花筐公民館の耐震化について >

花筐小学校の耐震化は、説明のとおり完了しているが、花筐公民館の耐震化はなされているの  
か。いないのなら、今後耐震化の予定はあるのか。

A 9 : 教育振興課副課長

花筐公民館の耐震診断の結果は、Dランクです。5段階の下から2番目の、耐震性がか  
なり劣るレベルとなっています。

市では、多くの公共施設が老朽化する中で、子どもたちの安全を第一に考えて、平成2  
7年度までに学校耐震化率100%を目指して、工事を着手しているところです。

花筐小学校については、平成21年度及び平成22年度に工事を完了しました。併せて、  
幼稚園・保育園についても、幼保一体化計画を推進する中で実施しているところです。

市が保有する建築物につきましては、市有建築物の耐震化計画を作成しています。この  
中で学校、幼稚園の耐震化に加えまして、大勢の方が使用する大型施設・特定建築物を耐  
震化することを位置付けしています。

具体的には、武生公会堂記念館は平成24・25年度に耐震化工事を実施中、文化セン  
ター大ホールについても平成27年度完成を目指して今年度実施設計を行います。

地区公民館につきましては、災害時の拠点となる施設であり、今後、先ほど説明した特  
定建築物の耐震化に続きまして、耐震化を進める必要があると考えております。

地区が提起する課題「高齢社会における地域福祉」について

Q10 < 高齢者福祉の現状について >

介護認定を受ける必要がない老人でも、交通弱者であったり重い物が持てない等、生活上の不都合がある。このような場合、行政のサービスの現状はどうか。また、相談窓口はどこなのか。

A10：福祉保健部理事

介護認定を受けていない高齢者の方でも利用できるサービスとしまして、生活支援サービスというサービスがあります。このサービスは一人暮らしや高齢者のみの世帯が対象となり、家の簡単な修繕とか玄関先の除雪などの支援を受けることができます。ただし非課税世帯の方が対象です。

他にも社会福祉協議会が行っています「ふれあいサービス」や「越前ファミリーサービスクラブ」が通院や家事に係る支援などを行っています。また、移動全般に車椅子を必要とする高齢者等の方には、リフト付の車両で通院の支援を行う外出支援サービスを行っておりますので、対象となる場合にはご利用をしていただきたいと思います。これらのサービスについては、各々窓口はありますが、市の地域包括支援センターへ、また粟田部地区であればメゾン今立サブセンターにお問い合わせいただければ、ご相談に応じることが出来ますのでよろしくお願い致します。

(民生委員の改選についてのお願い)

Q11 < 地域における民生委員活動について >

民生委員として、一人暮らし老人の玄関の除雪や5～7軒の屋根の雪下ろしをしている。

一人暮らし老人が益々増え、民生委員だけでは支えられない。地域で支えないと無理だと思う。市の方で、隣近所が助け合う運動の応援をしていただきたいと思います。

甲状腺被ばくを防ぐ安定ヨウ素剤の話がありますが、私のお勧めは、小学生のときから海藻・ひじき・昆布を日ごろから食べるということです。それらを食べ続けると、自然とヨウ素が蓄積される。これを推奨したい。

事務局長：今のご意見は、ご要望として承れば良いですか。

民生委員：はい。

閉会のあいさつ（花筐自治振興会事務局長）

閉会